# 笠原のまちづくりによる 地域と共に成長する新しい学びの場

新しい笠原義務教育学校は、子どもたちが９年間一緒に学び合い育ち合う場所であり、地域の人々と一緒に学ぶ大きないえのような場所です。地域と共にある学校づくりは笠原地域の大切な「まちづくり」であると考え、子どもたちと地域が一緒に成長できる新しい学びの場を提案します。

**シンプルでコンパクトな配置計画**

現在校舎の建っている安心な地盤面に、新校舎･体育館･武道場･プールをコンパクトにまとめ、小･中･地域みんなで利用しやすい一体施設をつくります。

各階の交流スペースである**「もり」**を中心にクラスルームや特別教室を配置した、明快なゾーニングです。

**コンパクトで使いやすいみんなの学校**

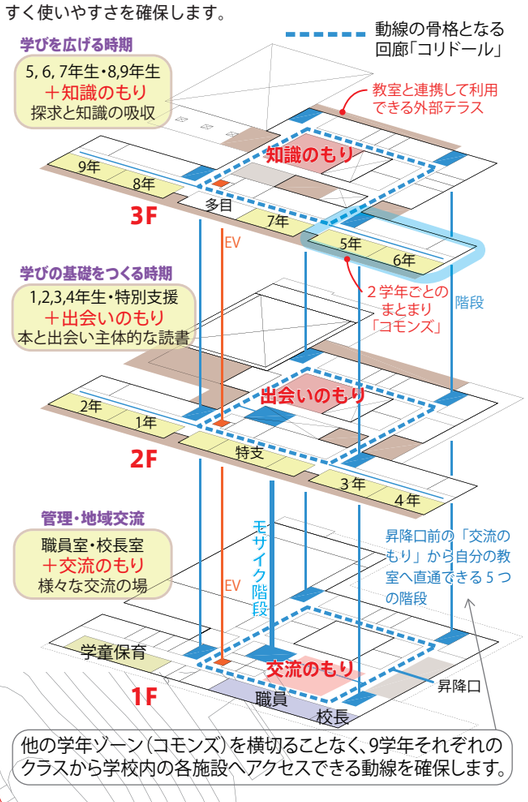
地域のみんなが利用する、体育館、武道場、音楽室、多目的室などを、北側の地域開放エリアとし、セキュリティラインを設けて地域開放をします。

**様々な活動が展開できる「交流のもり」**

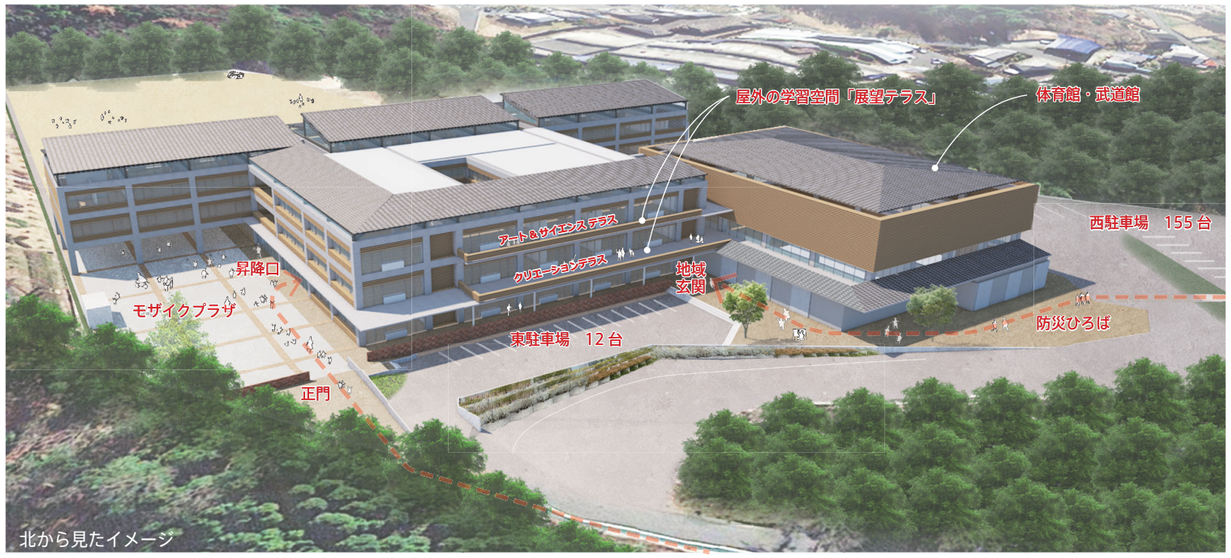
昇降口から入るとモザイク階段に面した「交流のもり」があります。階段を観覧席にして英語やダンス発表の場として使ったり、その様子をみんなのスタジオで撮影して動画配信をしたり、吹抜を活用して立体作品を展示したり、地域の方との交流の場としたり、活動の幅は無限大です。

**わかりやすい動線計画**

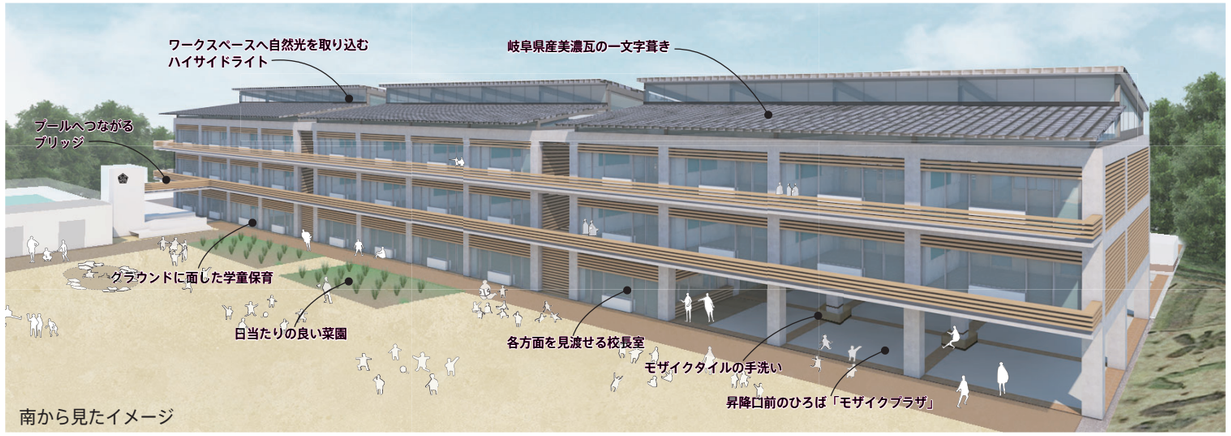
学校動線の骨格となるコリドール（回廊）を各フロアにつくります。コリドールの四隅に縦動線の階段を配置し、学校内の移動がわかりやすく使いやすさを確保します。




他の学年ゾーン（コモンズ）を横切ることなく、9学年それぞれのクラスから学校内の各施設へアクセスできる動線を確保します。



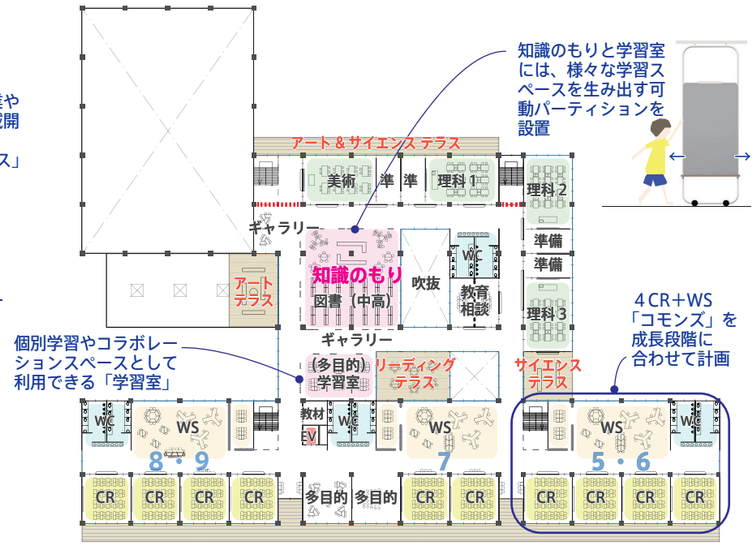

北から見たイメージ




南から見たイメージ

**1F** 管理･地域交流
職員室･校長室
**＋交流のもり**「様々な交流の場」

**2F** 学びの基礎をつくる時期
1，2，3，4年生･特別支援
**＋出会いのもり**「本と出会い主体的な学習」




**3F** 学びを広げる時期･自分の学びを深める時期
5，6，7年生・8，9年生
**＋知識のもり**「探求と知識の吸収」